

企業ニュース 国際石油開発帝石

(東証1部:1605) <https://www.inpex.co.jp/>

作成者:兵藤三郎

国内大手の資源開発会社

2006年、国際石油開発と帝国石油による共同持ち株会社・国際石油開発帝石ホールディングスとして設立された(旧帝石は1941年に石油鉱業部門を一元化するために設立された国策会社。旧国際石油開発は海外で石油資源の自主開発を推進するために設立された企業)。石油資源などの探鉱・開発・生産・販売などを行う、国内大手。2008年に現社名に変更した。2018年7月イクシスLNGプロジェクト(以下イクシス:当社が日本企業として初めて操業主体として事業を推進する大型プロジェクト)での生産が開始された。同プロジェクトは1998年に鉱区取得、以降約20年をかけ取り組んできた。埋蔵量は約53億バレル(原油換算、当社全体の確認及び推定埋蔵量)で、長期にわたる業績貢献が期待されている。

イクシスLNGプロジェクトの概要

項目	内容
位置	西豪州沖合約200Km
権益比率	62.245% (オペレーター)
保有周辺18鉱区の状況	探鉱活動中、ガス構造発見11鉱区
生産期間	約40年
生産開始	2018年7月 (10月出荷開始)
生産計画 (LNG)	年間約890万トン
同 (LPG)	年間約165万トン
同 (コンデンセート)	日量約10万バレル (ピーク時)

(出所) 国際石油開発帝石資料よりCAM作成

イクシスの利益貢献始まる

19.12期・第1四半期(4-6月)業績は、売上高が2,874億円、前年同期比42%増、当期純利益が297億円、同77%増。イクシスの業績貢献などにより大幅増収増益となった。販売量は原油、天然ガス(含むLPG、以下同じ)ともに増加、単価は原油価格の下落を天然ガス上昇で補い、為替影響も増収に寄与した。イクシスの生産量は順調に拡大している模様。

19.12期(今期より決算期変更)の会社計画は売上高が9,880億円、調整後前期比(4-12月期の比較、12月決算子会社は12カ月の比較)23.5%増、純利益が900億円、同72%増。期初計画からは、売上高で300億円の上方修正(純利益計画は据え置き)した。前提となる原油価格はBrent原油で65.0ドル/バレル、為替は110円/ドル。足元はネガティブサイドで推移し、かつ感応度も高く、計画値のハードルは高い。一方、イクシスは順調に進捗している模様で、業績下支え要因として期待できよう。当社はイクシスの周辺に18の探鉱鉱区を保有しており、開発状況の進捗に注目が集まろう。

[株価動向・投資判断]

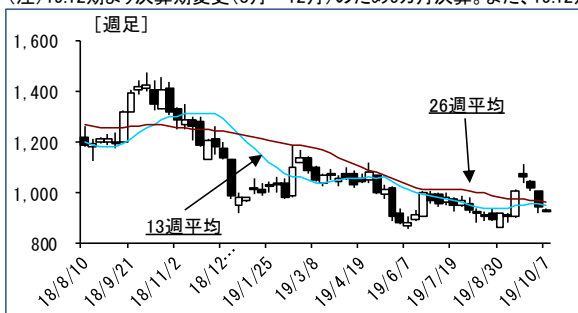
資源価格変動の影響は大きいですが、中期的な成長が期待できる銘柄として臨みたい。イクシスの利益貢献の拡大、周辺鉱区などの開発進捗に期待したい。

<1605 国際石油開発帝石 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
18.3	933,701 (7)	357,363 (6)	387,269 (16)	40,362 (▲13)	27.6	18.00
19.3	971,388 (4)	474,281 (33)	519,278 (34)	96,106 (138)	65.8	記24.00
19.12 予	988,000 (-)	472,000 (-)	460,000 (-)	90,000 (-)	61.6	24.00

(注)19.12期より決算期変更(3月→12月)のため9カ月決算。また、19.12期の伸び率は非表示。



[主要株価指標] (売買単位:100株)

株価(2019/10/7)	931.7 円
年初来高値(高値日)	1,186.5 円(19/2/13)
同 安値(安値日)	853.4 円(19/6/3)
予想P/E R(19.12 予)	15.1 倍
1株株主資本(PBR算出用)	2,022.4 円
P/B R	0.46 倍
予想配当利回り	2.58 %
(1株当たり配当金年24.00円)	
R/O E(19.3)	3.2 %
発行済み株式数	146,232 万株